

対馬の環境を考える
生物多様性 後篇

里山が育む 命のつながり

これは何の
写真だろうか？



国の天然記念物ツシマヤマネコの足跡。

上県町田の浜地区の田んぼでみつけた。

絶滅が危惧されているツシマヤマネコと人間がごく近くに
「哥らしている」。

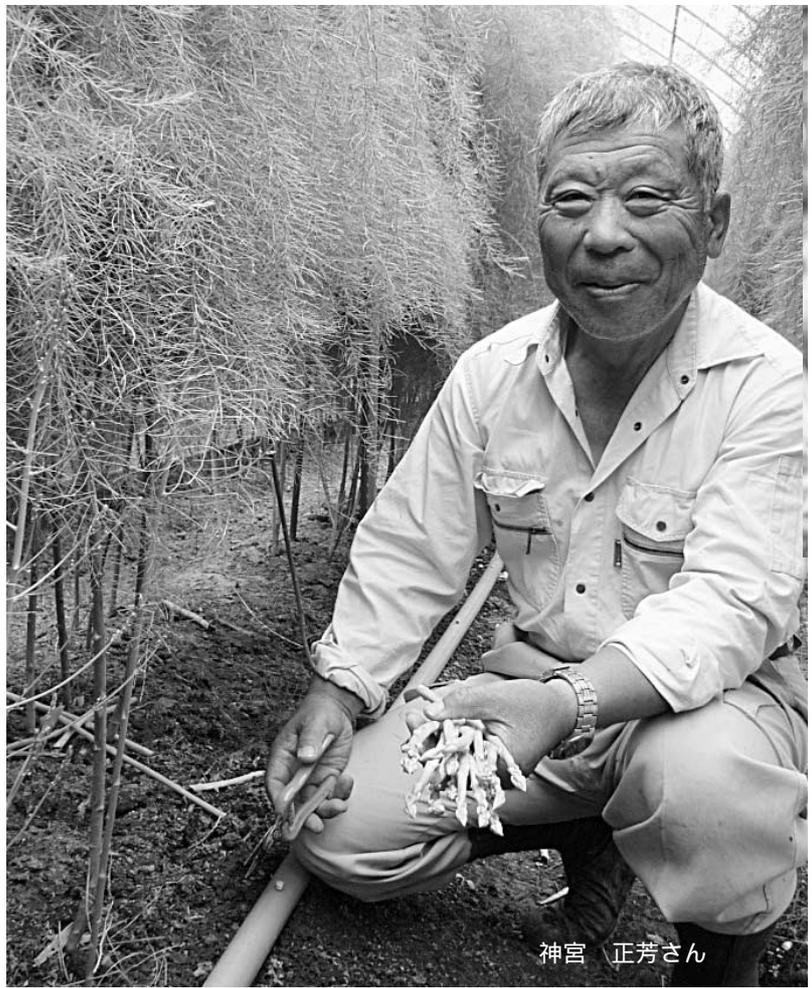
人々が林業や農業を営み、生活の場としてきた「里山」
はヤマネコをはじめとして多様な生き物たちの棲みか
としての役割を果たしてきました。



たわわに実った神宮さんの田



蜂蜜も収穫の時期



神宮 正芳さん

里山に生きる

里山の風景が多く残る上県町。米どころとして知られる佐護南里の中山地区に住む神宮正芳さんは、人と自然が調和する環境に配慮した農業にとりこんでいる。神宮さんの自宅や畑の周辺では、ネズミの毛、鳥の羽根などが混じったツシマヤマネコの糞が度々見つかるそうだ。

裏山はコナラ、シイ、カシ、アベマキなどの木に覆われ、庭先にはユズやカキ、イチジクなどの果樹が実をつけ、庭ではニワトリが鳴き、田に出ると黄金色の稲穂。チヨウチヨやトンボ、ミツバチ、バッタも飛び交い、里の秋が体にしみこんでくるのを感じる。夜になるとアキマドボタルも家に飛び込んでくるとか…。

その一方で神宮さんは、林業が衰退し山は荒れてしまい、川の水質も悪くなりそこに住む生き物が減ったなどと話し、生態系が崩れているのを実感する。同時に、「自然とともに生きてきた農業者には食の大切さを伝えることに加え、自然を再生させる役割がある」とも話す。

「ストーリーのある農業」が神宮さん流の野生生物との付き合い方。冬場休耕するアスバラガスのハウスにもみ殻堆肥を敷き詰めるとネズミの家になるでしょ。ネズミが増えたとヤマネコの格好のえさ場となるんです。以前、歳老いたヤマネコがハウスの周りにすみついたことがあったんです。ここならあまり動かなくても餌があると思っただけでしょうね。庭で飼っているニワトリはヤマネコへの挑戦なんです。獲りたいなら来てもらんというメッセージをおくっているつもりです。収穫を終えた田んぼに水を張るのは渡り鳥たちに休息してほしいから…野生生物と心の会話を楽しむ。

「以前ある人に神宮さんの田んぼは草だらけやないね」と言われたことがあったんです。できるだけ農薬を減らし、カエルやトンボが益虫として働く田んぼを作りたいから気にはしませんでした。水と土を基本にした有機栽培が生態系の保護につながります。結局は伝統農法に帰ることが大切ではないかと。これは後退ではなく、自然と共存した価値ある産物として経済効果を生み出すことに繋がるんじゃないかと思っんです。

長い年月をかけて里山には多様な自然環境が作られてきた。そして形の違う、役割の違う個々の生物たちは互いに支え合って繋がりが合ってきた。



ツシマヤマネコへの挑戦でもある鶏



孫の光太さんとクワガタを捕りに行くコナラの木
今年の夏にはなんと30匹見つけた



唄にも出てくるオケラ、初めて見る子が多かったのでは？



毎日食べるお米に沢山の手間がかかっていることを知る

子ども達に伝える里山

神宮さんにはもう一つの顔がある。

農業にふれあいながら周辺の自然環境にも興味を持ってもらおうと、島内各地の親子などを対象に開かれている「田んぼの学校」の校長先生だ。田んぼの学校は、ツシマヤマネコの生息地として知られる田の浜地区で3年前から行われている。この田んぼでは農業も化学肥料も一切使わない。いわゆるエコ田だ。神宮さんを中心に田植え、草取り、収穫、脱穀、試食と年間5回の楽しい授業が行われ、今年も約70人が参加している。

10月17日には、3回目の活動となる稲刈りが行われた。田んぼに入ると白米に交じって古代米や赤米、黒米など珍しい品種の米も稲穂を垂らす。水と土だけで育った稲は収穫量は少ないながらも、自力で育った力強さを感じさせる。参加者はカマを手に収穫の喜びを味わった。

学校に参加する子供たちが米づくりと同時に何より楽しみにしているのが、毎回行われる生きもの調査。稲刈りはそのどこに(？)田んぼや近くの水路では、みつけた！の歓声が飛び交う。春にはメダカ・ゲンゴロウ・クサガメ、夏にはカブトムシ・クワガタといった生き物たち。デンジソウ・エゾミソハギ・コウヤワラビなどの植物にも出会った。そして今回も出てきた！出てきた！

カエルにドジョウ・タイコウチ・バッタ・オケラ・トンボ…、稲穂にはネズミの巣も。「子ども達はお腹がすいたのも、のどが渴いたのも忘れとるでしよ。それだけ生きものって魅力があるんです。人を癒してくれるんです。農業を使うと微生物が死ぬからそれを餌とした生き物も姿を消します。数年農業を使わないだけで、生きものは目に見えて増えてくるんですよ。」

ぼくらはみんな生きてるよ、ミミズだって、オケラだって、アメンボだってみんなみんな生きてるんだ友達なんだよ。子ども達に残したい、人も動植物も一緒に暮らす風景がこの小さな田んぼで蘇りつつある。



ネズミの巣を発見

田んぼの学校の教室は青空の下



自然と農業のつながりを体で学ぶ

